

高用量インフルワクチンという新しい選択肢

インフルエンザは高齢者において重症化率や死亡率が高く、標準用量 4 価不活化インフルエンザワクチン（以下、標準用量ワクチン）では十分に防ぎきれない現状があります。

こうした中、高齢者に対する高用量 3 価不活化インフルエンザワクチン（以下、高用量ワクチン）は、抗体価や感染予防効果の面で標準用量ワクチンを上回る有効性が示され、インフルエンザの重症化・入院を防ぎうる有力な選択肢となりますが、残念ながら高用量ワクチンの販売は今季も見送られ、2 年連続で導入が見合わせとなりました。

海外では既に多くの国で使用され、有効性・安全性の評価が確立していますが、現行の標準用量ワクチンの自己負担に比べ、高用量ワクチンでは数千円規模で差が生じる可能性があり、接種率向上の妨げの 1 つとなっています。